

日本スポーツとジェンダー学会 第7回大会

開催日:2008年7月5日(土)13:00~7月6日(日)16:40

会場:大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)

大阪府大阪府中央区大手前1丁目3番49号 <http://www.dawncenter.or.jp/top/index.jsp>

交通:京阪・地下鉄谷町線「天満橋」駅下車 徒歩10分、JR東西線「大阪城北詰」駅下車 徒歩15分

シンポジウム共催:大阪体育学会 身体運動文化領域研究会

協賛:大阪府教育公務員弘済会・NPO法人MGLA(体操リーダー連絡協議会)・

帝塚山体操クラブ パステル・大塚製薬株式会社

後援:(財)東海ジェンダー研究所・(財)日本体育協会

7月5日(土) 全体テーマ「メディア・スポーツ・ジェンダー」

12:30~ 受付

13:00~ 開会挨拶

13:10-16:50 シンポジウム「個を尊重するスポーツ・メディアの可能性」

第1部シンポジスト発表(13:10~14:50)

コーディネーター:飯田貴子(帝塚山学院大学)

シンポジスト:左近允輝一(帝京大学、元朝日新聞記者)

「日本にスポーツジャーナリズムは存在するか—特殊な世界を乗り越えて」

結城和香子(読売新聞東京本社運動部)「オリンピック報道の使命と限界」

阿部 潔(関西学院大学)「スポーツ番組が語るもの／伝えられ方・視られ方

—ジェンダー／セクシュアリティ／マシンの交叉点—」

第2部:グループディスカッションとまとめ(15:20~16:50)

17:00-18:00 総会

18:00-20:00 懇親会

7月6日(日)

09:30-11:20 ワークショップⅠ

テーマA「スポーツ報道とメディア・リテラシー —北京五輪に向けての提言—」

企画担当・話題提供:登丸あすか(立命館大学)

コメンテーター:山口理恵子(城西大学)

テーマB「体育・スポーツと性的マイノリティ —当事者の提言から性的マイノリティの人権を考える—」

企画担当・話題提供:建石真公子(法政大学)

話題提供者:尾辻かな子(前大阪府議会議員)

司会:來田享子(中京大学)

11:35-14:35 一般発表Ⅰ・Ⅱ (このうち12:35-13:35は昼食・休憩)

14:50-16:40 ワークショップⅡ

テーマA「スポーツ報道とメディア・リテラシー —北京五輪に向けての提言—」

企画担当・話題提供:登丸あすか(立命館大学)

コメンテーター:山口理恵子(城西大学)

テーマB「体育・スポーツと性的マイノリティ —性にかかわる教育活動の現場から—」

企画担当・司会:建石真公子(法政大学)

話題提供者:小田切孝子(PLHNET (HIVとともに生きる会) 代表、京都教育大学非常勤講師)

來田享子(中京大学)

参加費:2日参加:4,500円(学生2,500円)、1日参加:3,000円(学生2,000円)

※JSSGS会員は6月2日までの早期申込みにより4,000円。いずれも懇親会費(5,000円)は別途必要

お問合せ:日本スポーツとジェンダー学会 第7回大会実行委員会 事務局

URL <http://www.jssgs.org>

E-mail info@jssgs.org

〒590-0113 堺市南区晴美台4-2-2 帝塚山学院大学人間文化学部

飯田研究室 事務局長 登丸(とまる)あすか

Tel: 072-296-1331 Fax: 072-292-2135